



福井県

中学校長会の窓

発行 福井県中学校長会
 編集 福井県中学校長会広報部
 印刷 宮田写植印刷
 福井市春日1丁目7-4
 TEL (0776) 35-3865

第 142 号
 令和3年7月15日発行

会長挨拶



福井県中学校長会

会長 藤井雅之

(美山中学校)

新型コロナウイルスの感染収束が見えませんが、今や中学生の感染報告もされる状況です。今後とも、校長が強い危機管理意識を持ち、校長同士の情報交換や関係機関との連携を行う必要があります。円滑な学校経営に欠かせないのは「保護者や地域からの信頼」です。今回の感染対策においても、生徒の命や健康を守り、学びの定着を図るため、校長先生方は保護者や地域と深く連携し、理解を得ながら取り組まれてきています。これまでにない危機の中ではありますが生徒たちをしつかり守り、強く伸ばす経営を行うことが、厚い信頼に結びつくチャンスとも言えます。

さて、時代は日々刻々と変わり、生徒たちには未来を自らの手で力強く切り拓く力が求められます。一人一台のタブレットを用いての学習など、学びを深める方策や工夫にも取り組んでいます。しかし、「教育は人なり」と言われるように、学校教育の成否は教員の資質能力に負って

いると言えましょう。私たち校長は、仲間である教員を育て、組織を元気にする。それが、生徒たちを笑顔にし、活気ある学校づくりにつながると確信しています。ただ、私たちが若い頃と異なり、土日もお盆正月も関係なく、二十四時間働けますかの世界は終わりました。私たちは生徒だけでなく教員も守らねばなりません。

話は変わりますが、オリンピック予選における池江璃花子選手一〇〇mバタフライ決勝の泳ぎを見ておられたでしょうか。私は画面を見ながら、最後は「行け、行け」と叫びました。そして、彼女の姿や言葉を通して涙が流れました。思いもよらない白血病になってしまった辛さや苦労は、なったことのない私にはわからない壮絶なものがあるのは想像に難くありません。

それ故、白血病を克服し優勝までしてしまうその姿に心打たれない人はいないと思います。なぜ、こんな話をしたかと言えば、私事で申し訳ないのですが、以前ある中学校で教えた生徒（Rさん）も突然白血病と診断されたからです。二年生の冬、お母さんからの電話に私は絶句しま

した。彼女の命が失われるという恐怖に襲われました。真面目に勉強している姿、レシーブやアタックの練習にひたむきに取り組む姿などが走馬燈のように流れました。彼女に何ができるか、どうすれば元気な気持ちになってくれるかを部員と考えました。仲間は一人一人がボールに彼女への思いを書き込みました。私は彼女が大好きな、当時全日本バレーボール代表選手に手紙を書きました。ありがたいことに、栗原恵選手はすぐに励ましのお手紙を返してくださいました。彼女は感激し、無菌病室内の目や手の届くところに手紙やボールを飾りました。そして、長くて辛い治療に耐え、家族の励ましも受けながら三年生の十二月に退院できました。帽子を被った状態で試験が受験でき、合格を勝ち取ることができました。彼女は大学卒業後教員採用試験を受験し、今教員として坂井市で働いています。

私たちは生徒の幸せを第一に願っています。それを支えるには、教員の健康や情熱が必要です。今年度は、コロナ対応に加え、新学習指導要領の完全実施、県立高校入試の前倒しへの対応など、昨年度まで以上に校長の力量が求められる年です。県中学校長会の総力を持って、この難局に立ち向かっていきたいと思います。

令和三年度 福井県中学校長会

役員名 列

会長	(美山)	藤井 雅之
副会長	(陽明)	齊藤 孝実
副会長	(三方)	百田 忠浩
会計監査	(春江)	市村 直哉
会計監査	(紫雲)	片山 幹子
理事(福井)	(美山)	藤井 雅之
理事	(国見)	渡邊 俊範
理事	(明道)	新道 正芳
理事	(永平寺)	前川 秀幸
理事	(金津)	荒川 誠
理事	(丸岡)	水持 直幸
理事	(陽明)	齊藤 孝実
理事(奥越)	(勝北郡)	小林 泰浩
理事(鯖丹)	(中央)	澤 和広
理事	(宮崎)	太田 秀一
理事(南越)	(紫雲)	山本 晃市
理事	(池田)	平井 浩一
理事	(南条)	齋藤 為之
理事	(粟野)	高谷 敦志
理事(二州)	(三方)	百田 忠浩
理事(若狭)	(小浜)	山名 聡
理事	(名田庄)	中島 正二
理事(中教研)	(至民)	小林真由美
理事(中体連)	(明倫)	小林 孝史
理事(教育研究)	(清水)	田中 佳之
理事(実行部)	(森田)	向 誠隆
理事(進路対策)	(灯明寺)	塩谷 圭司
理事(広報)	(大飯)	時岡 聡
理事(学力診断)	(安居)	高橋 和代
庶務幹事(庶務)	(成和)	坂田 雄一
庶務幹事(会計)	(進明)	合川 修一
事務局員		山下正明
事務局員		小島敏弘

専門部だより

教育研究部

田中 佳之（清水中）

県中学校校長会の教育研究部は、毎年県内で開催される「中学校長研究大会」の運営のお手伝いをさせていただいたり、東海北陸や全国の研究大会への参加者の選定をさせていただいたりしています。それぞれの研究大会では、現在の学校現場で求められている課題に沿って発表がなされます。実践に基づいた発表であるため、校長として学校経営に参考になるものばかりです。令和二年度は新型コロナウイルスの影響により研究大会が中止となりましたが、今年度は、県の研究大会を当初予定していた期日や会場を変更して実施する予定です。参加される校長先生方にとって実りある大会になるよう、発表集録の作成や大会運営に協力していきたいと思っています。

また、県中学校校長会のホームページを通して、中学校校長会の活動やいくつかの中学校の様子を発信していきます。年に三回の更新を予定していますので、中学校長の様子が広く知れ渡ることを願っています。

人事行財政対策部

向当 誠隆（森田中）

県中学校長会人事行財政対策部では、教育現場の現状と課題を踏まえ、よりよい教育内容の実現と教育環境の充実を図るため、県小中学校長会人対部と連携しながら、県教育長と語る会を計画・運営し、提言や意見交換の場を設けています。

令和二年度は次のようなテーマで懇談を行いました。

- ①働き方改革
- ②自ら学ぶ授業への転換（教え込む教育からの脱却）
- ③意識改革と校長のリーダーシップ
- ④福井県の教育を向上させるための取組等

令和二年度は、テーマ策定の際に県教委からの要望も取り入れ、福井県が取り組む教育により関わりの深いテーマとなりました。また、教育長総括の中で、今後も教員との話し合いをできるだけ多く行いたいという話がありました。

今年度の「語る会」も、適切なテーマを設定して、様々な視点からの意見交換の場となるよう計画・運営に努めてまいります。そして、学校現場と行政が協働しながら、福井県の教育をより高めていくための大切な機会にしたいと考えています。

進路対策部

塩谷 圭司（灯明寺中）

進路対策部は、「高校入試制度の新しい動向に理解を深め、適切に対応することで進路指導の充実を図る。」を活動方針として今年度一年間取り組んでいきます。

四月に県教育委員会から令和四年度県立高等学校入学者選抜に係る日程等が発表されました。一般入試が、約三週間前倒しの二月十六日からとなり、私立入試、高専入試、県立入試が約二週間で行われる過密日程となりました。また、私立高校と同様にWEB出願にもなりました。それにもない志願変更についても大きく変更になります。これにより生徒の進路決定も以前と比べ早まることと予測されます。そこで、進路対策部では例年二回だった進路希望調査を一回増やし、生徒たちの動向を早めにつかみお知らせしていきたいと考えています。また、地区ごとの連携も進めていきます。

働き方改革にもない、昨年度までに調査書の簡略化や入試の引率の軽減などが図られてきました。今年度は、中学校にとって負担の大きかった特色選抜とスポーツ文化選抜の面談について改善していけるよう、県高等学校長協会と私立学校協会に要望していきます。今年に入試が大きく変化する年となりますが、各校長先生方のご意見やご支援をいただきながら、生徒たちの進路実現のために努力していきますので、よろしくお願

広報部

時岡 聡（大飯中）

福井県中学校長会広報部では、本校長会の活動を広報するとともに、会員相互の情報交流を図ることを目的とし、機関紙「中学校長の窓」を年間二回発行しています。

例年、前期号では「中学校長研究大会」の記事と新任の校長先生による新入会員だより「中学教育に『清風』の原稿を中心に、また、後期号では「中学校長研修会」の記事と退職される校長先生方による「校長三昧『點眼水』の原稿を中心に編集をしています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防のため、五月に予定されていた中学校長研修会を延期し、十一月の中学校長研修会を研究大会として開催することになりました。これに伴って、機関紙「中学校長の窓」の内容も例年とは異なる内容となりますが、会員の校長先生方にとって日々の学校運営に役立つ情報を発信していけるよう、工夫をしたいと思います。

昨年度に引き続き、感染症予防対策を優先しながらの学校運営で多忙な日々を過ごされていると思いますが、そのような中多くの校長先生方が寄稿くださいましたこと、心よりお礼申し上げます。

学力診断部

高橋 和代（安房中）

今年度も、県内の中学三年生を対象に、十一月九日、十日に「学力診断テスト」を実施する予定です。このテストは、学習指導要領に基づいた学力の状況を診断するために行うものであり、その診断結果をもとに、「生徒は、自己の学習の達成状況を確認して、事後の学習の参考にすること」、「教師は、学習指導の課題を把握して、授業（指導）改善に生かすこと」を目指しています。県教育庁義務教育課指導主事の皆様、県中教研各教科部会長並びに県中学校長会学力診断部委員の校長先生方の御指導や御協力を賜りながら、正確で適正な実施・運営ができるように尽力したいと思います。

また、問題作成にあたる各教科の先生方におかれましては、学校の業務を行いながらの作成で大変なことと思います。福井県の中学生の更なる学力向上や授業改善の視点を提案できるように議論を重ね、熱心に問題作成や分析に取り組まれる姿にいつも心から感謝しています。勤務校の校長先生の御理解にも感謝します。

新型コロナウイルス感染症に関することだけでなく、運営において様々な対応が必要になってくることと思います。皆様の御協力を賜りながら、学力診断テスト本来の目的が達成できるように進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。



中学教育に 清風

新入会員だより

「大安寺型十二年教育」

をいっそう推進

大安寺中学校長 竹本俊穂



本校のある大安寺地区は、その名を福井藩主松平家の菩提寺である大安禅寺

に由来し、その寺のある山や地区内を流れる二つの河川（九頭竜川と日野川）など、豊かで美しい自然に恵まれた風光明媚な地域です。

この度の異動が決まったとき、ある先生が「心が洗われる学校だよ。」と教えてくださいました。四月八日の入学式（入園式）以来、新型コロナウイルスをもものともせず、教室や体育館、玄関など校内の至る所に、園児や児童、生徒（総勢九六名）の明朗暢達な姿がありま

す。また、家庭の温かい愛情と地域との深い繋がりの中で育てられ、素直で無垢な心と澄んだまなざしをもった子供たちに囲まれていきます。このような正に心が洗われる学校で教育活動に携わることができ、喜びを日々感じております。

併設校であるため、発達段階に即した系統的なスキルアップおよび十二年間の連続した学びを通して、心豊かでたくましく、積極的に取り組む子供たちの育成を目指しております。今年度は、「自分の力で未来を切り拓く子供の育成、自分事として捉えられる学びを通して」を研究主題に設定し、協働して課題解決する教育活動の工夫・実践や、タブレット端末の積極的活用など、新しいことにも積極的にチャレンジすることにより、「大安寺型十二年教育」をいっそう推進してまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

「真・美・剛」をめざして

藤島中学校長 片岡祐治



本校は、福井市の西北部、九頭竜・日野・足羽の三河川に囲まれた田園地帯

に、昭和六十年に創立された比較的歴史の浅い学校です。令和三年度は、真新しい茶色の制服に身を包んだ新入生一一九名を迎え、全校生徒三五八名でスタートしました。入学式の新入生代表の生徒が、「茶色の制服に誇りをもち……という言葉を挨拶の中で語っていました。本校独自の茶色の制服に愛着と誇りを持ち、さらに新たな伝統をつくっていかうとする気概を感じ、とてもうれしく思いました。」さて、本校は「真・美・剛」の校訓のもと、「藤中アプローチ」という主体的に学ぶ力を育てるための

取組を進めています。学習に限らず、生徒会活動などさまざまな場面で、生徒一人一人が自ら考え、実践に移せるような様々な工夫を仕掛けることにより、生徒の主体性を伸ばそうとするもので、着実に成果を上げています。このように、変化する社会に対応できる様々な力（主体的に学ぶ力、人間関係を築く力、互いの意見を認め合い協働する力等）を育むとともに、安全・安心に学校生活を送ることができるよう、「チーム藤島」を合言葉に、保護者や地域のご支援をいただきながら教職員が一丸となって教育活動に取り組みしていきたいと思っております。

笑顔があふれ

信頼される学校づくり

大東中学校長 水野克己



本校は、福井市の東部に位置し、東部を代表する中学校として成長、発展し

続けるという遠大な夢を託して命名された学校で、創立四十四年目を迎えました。校歌の作詞は則武三雄先生（円山の偉人）、作曲は高田三郎先生がされ、詩の三番「朝より朝をリレーしよう 太陽になつていそしもう」には一番、二番とは違ったメロディーがつけられています。全校生徒は四九七名で素直な生徒が多く、「気力、自主、友愛」の校訓のもと、学習、部活動に生き生きと取り組んでいます。生徒会を中心に、挨拶、合唱、黙働清掃、集合に力を入れており、

それらは伝統として根付いています。

今年度もコロナ禍の中での学校生活が当分の間は続きそうで、生徒の気持ちや成長の面が気がかりです。そこで、生徒が「学校が楽しい」と実感できることを目指し、「学ぶ楽しさを実感できる授業」、「認め合い、高め合う集団」、「豊かな心と健やかな身体の育成」をキーワードに教育活動を進めていきます。教職員の力量アップや生徒と向き合う時間の確保のために働き方改革も推進していきます。

私はこの大東中学校で四十代の頃に六年間、教頭として三年間、お世話になってきました。教員として多くのことを学び、育てていただいたことに感謝しています。今度は校長として、生徒や教職員の笑顔があふれる学校、家庭や地域に愛される学校、信頼される学校づくりに一生懸命取り組んでまいります。

地域に根ざした学校に

社中学校長 安本桂樹



本校は、社地区の過密化解消および学校規模適正化を図るために、昭和六十

二年に市内二十一番目の中学校として開設されました。住宅地としての増加傾向は落ち着きはじめていますが、商業地区としては今も発展を続け、かつての農村地区の面影は次第に失われてきています。校区には運動公園や図書館などの体育・文化施設が集まっており、

教育環境として恵まれています。敷地や校舎もゆつたりとしていて、例年五月下旬になると、中庭でカエルガモのひなが十羽以上誕生し、生徒も教職員もとても癒やされています。

生徒は、町内清掃や町内行事の参画など多くの地域活動を通して、地域全体で温かく見守られています。高齢化が進むなか、貴重な援助者として、また文化的行事では賑わいの演出者として、さらに町づくりでは地域活性化のアイディアマンとして地域から期待されており、地域の行事に欠かすことができない存在になっています。

本校の役割として大切なことは、生徒一人一人の学力や体力を十分に保証していくことです。四百個余りの原石をしっかりと磨き、光り輝かせていくように、生徒をしつかりと鍛え、ていねいに手をかけて育てていくことだと思っております。

そうすることで、生徒が自信を持ち、さらには、地域に根ざした信頼される学校づくりにつながると考えています。そのためどのようにしていくのかを常に考えながら実践していく教師集団を作っているよう、校長として日々努力していきたいと思っております。

地域の伝統・風土と

支援に感謝して

越廼中学校長 野坂訓由



本校は、東に越知山系の山並みを背負い、西に日本海を望む風光明媚で自然

豊かな地域にあります。校舎二階の談話スペースからは、大味海岸の向こうに広がる穏やかな陽春の海を眺めることができます。また、校舎は時計塔を有するモダンで独特の外観をしており、その姿からは、越廼村立中学校時代の、地域の方々の学校教育にかける強く熱い思いが感じられます。それはまた、これまで本校に奉職された多くの教職員や、本校を巣立っていった生徒、保護者の方々によって支えられ続けてきた姿であると、日々感じていきます。

未来を創る学びを 子供たちと教職員とともに

福井大学教育学部附属義務教育学校
副校長 吉田 千春



本校は、義務教育学校であるというばかりでなく、教育研究

学校、教育研修学校として地域に貢献するという使命をもっています。学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善は、本校が二〇年以上の研究を積み上げてきた「探究するコミュニティ」を生み出す授業研究と重なるものであると確信し、現在は「学びのストーリー（過程）を子どもと共に省察する」というサブテーマを掲げ、研究を進めているところ です。

本校の教育を一言で言うならば、校訓の「自主協同」です。本校ほど校訓が生徒にいきわたっている学校はないのではないのでしょうか。「主体的に学び続け、対話を通じて他者とともに新たな価値を生み出す」そのような生徒主体の教育活動を彼ら自身が自覚し、授業だけでなく生徒会などの自治活動においても実践しています。



コロナ禍での学校生活においては、班での探究活動や学年全体での意見交流、創作活動をこれまでには行えない状況が続いています。タブレット端末を活用し、個々の生徒の考えを集約したり、話し合い活動を進めたりと、生徒と教員が知恵を出し合って「自主協同」の学びを具現化しようとする

努力しています。そのような生徒や先生方が、笑顔で充実感や達成感を味わえる教育活動を進めていけるよう日々尽力したいと考えています。

ご恩返しと決意

松岡中学校長 野村 博明



多くの方との出会いの中で、私自身が教員として、人として成長させていた

いただきました。児童生徒一人一人の素直な気持ちに寄り添い、生徒の目標を実現させ、「自立」を促し、集団の中で自信を育てていく、その指導の過程で私自身も児童生徒の理解の仕方、個に応じた指導の工夫、チームで指導にあたることの重要性、計画性の大切さなど、多くのことを学びました。児童生徒、教員、保護者と喜怒哀楽を共有でき、愛校心の育てることができるとこの仕事に就いて良かったと実感しています。

生徒の自主性・主体性を引き出すためには、教師自らが主体的で創造的に行動する前向きな姿勢が重要です。やりがいと楽しさを実感している姿が、生徒、保護者、地域にも伝わりやす。そのような雰囲気を作るためには、生徒、教員、保護者の意見に耳を傾け、意見を吸い上げ、集団の中で話し合い、具現化していくことが大事だと考えています。先生方に、生徒に寄り添い、時代に寄り添い、「どのようにな生徒を育てたいか」を考え続けましょうと語りましたが、家庭

環境も様変わりし、生徒理解と対応も複雑になっていきます。また、新学習指導要領、IGAスクール、SDGsなど研修しなければいけない内容も増える中で、働き方改革も待たなれず。難解な課題に対し、少しずつでも理想に近づけられるように、笑顔で頑張りたいと思う今日この頃です。

「礼の心」と共に

上志比中学校長 佐藤 成司



上志比中学校は永平寺町の東部に位置し、北に九頭竜川、南に祝山・大佛寺

山に囲まれた自然豊かな地域にあります。全校生徒五七名、一小学校一中学校の小規模校ではありますが、そういう環境だからこそできる、手厚く地域と密着した教育実践を目指しています。

本校の校訓は「自立・根性・品性・友愛」の四つですが、それと同等以上に大切にしているものがあります。それは四十年近く上志比中の教育の柱となっている「礼の心」というものです。「礼の心」とは何か？その答えはありません。それは三年間の学校生活の中で、生徒たち一人一人が感じ取るものだからです。私は昨年度本校に教頭として赴任し、様々な場面で生徒が「礼の心」を大切にして生活していることを感じました。横断歩道・校門・体育館での心のこもった礼。熱心な無言清掃、感謝していた、口無言給食、語勢のある挨拶等、挙げれば

ばきりがありません。しかも、それらの行動は先輩や「礼の心」で育った保護者の方が行動で伝えていたものであり、立派な「伝統」として上志比中に根付いているのです。

そのような学校で、今年度より校長としてこの「伝統」の継承と発展の任に就けることに對して、この上ない喜びと大きな責任を感じています。お互いを尊重し認められるこの環境の中で、生徒一人一人が人生の指針となる自分の「礼の心」を確実に見つけられるよう、職員・家庭が一丸となった教育活動を推進していきたいと思ひます。そして、社会に出たとき、他人と協働し、自分の力を発揮できる生徒の育成に、全力で取り組んでいきます。

魅力的な教職員を目指して

開成中学校長 広瀬 泰司



道の駅「越前おの荒島の郷」が多くのユーザーに取

り上げられ、一躍脚光を浴びています。福井県初のモンベルストアもオープンし、ゴールデンウィークは交通渋滞を起すほどたくさんの方に訪れたいいただきました。来年度には中部縦貫自動車道が開通し、さらに賑わいを見ることが予想されます。この地に生まれ育って五十数年、大野も変わっていくなあと感じています。

さて、この変化に負けず劣らず教育界にも大きな変革が訪れてい

ます。学習指導要領が改訂され、全ての教科が三観点評価になりました。生徒が全員タブレット端末を持って授業を受けています。我々教職員はこの流れの中で不易なものとして流行なものを見極め、その両方を推進する必要があります。重要なことは教職員がどう判断し、どう授業や指導に生かすかということです。

「教育は人なり」とよく言われますが、まさにその通りだと思えます。本校では、人としての魅力アップさせるため、教職員には趣味や関心のあることにどんどん取り組みよう勧めています。魅力的な人になることが、魅力的な教職員になることにつながります。魅力的な教職員が、魅力的な学校を作り、生徒がその魅力に惹かれて楽しく学校に通います。魅力でいっぱい学校を目指して邁進します。

一人一人の生徒を徹底的に大切に

芦原中学校長 松原 正恭



本校は、福井県の最北端、石川県との県境に位置するあわら市にあり、校区には芦原温泉街、南部には田園地帯、北部には北潟湖や畑作地帯が広がります。あわら市の基本理念「ふるさとあわらを愛し、一人一人が夢や希望を持ち個性が輝く教育」のもと、校訓に「自主 正義 友愛」を掲げ、主体的に学び、考え、判断し、行動する、思いやりの心をも身につけた、知・徳・体のバランスのとれた生徒の育成を目指しています。生徒が社会の中でより良く生きていけるように、より良い社会をつくっていくように、生徒たちがかけがえのない自分を、どこかで本人なりに花が開かせることができるよう励まし続け、一人一人の生徒を徹底的に大切に、学校に安心して通うのが楽しい教育活動を進めています。「徹底的に」の言葉が重要であると考えています。生徒が将来、中学校時代を振り返ったときに、「充実していた。楽しかった。学校が大好きだった。先生と出会えて幸せだった。学校で学んだことが誇りである。」と思ってもらえるよう、教職員が一つとなり、五つのワーク(フットワーク、ネットワーク、チームワーク、ヘッドワーク、ハートワーク)を肝に銘じ、保護者や地域の温かい協力を得ながら、ふるさとあわらに愛着を持ち、あわら市の将来を担う人を創る教育を実践していきます。さらに、教職員がやり甲斐をもち、自らの人生を大切に、人としても成長できる「豊かな学校」を目指します。

思い出多き金津中学校にて

金津中学校長 荒川 誠



あわら市金津中学校は、竹田川のほとりに位置し、堤防を歩くと心地よい川風を感じることが出来ます。さらに川向いには、北陸新幹線芦原温泉駅の駅舎が少しずつ姿を現しており、街全体が活気づき始めて

います。

私は、今年度から金津中学校長を仰せつかりました。思えば平成七年に金津中学校に転任し十二年間勤務して以来、十一年ぶりに校長として帰ってくることとなりました。再び金津中学校で勤務できることのご縁に、嬉しさと懐かしさを感じつつ数日間を過ごしていたところです。先日、校長室を出て階段を昇るときに見えたグラウンドの風景があの日そのまま、一気に時間がさかのぼったような錯覚を覚えました。

さて、今年度をスタートさせるにあたり、教職員に次のようなことをお願いしました。「生徒一人一人が、金津中学校を誇りに思えるようにしてほしい。」これは、私が本校に勤めていた頃に、先輩教師から聞かされた言葉です。私たち教職員にとっても生徒たちにとっても、金津中学校で生活した時間は掛け替えのないものであつてほしいと願うものです。金津中学校での生活が楽しく充実したものであれば、後々になつてもおのずと金津中学校を懐かしく思い誇りに思うことでしょう。

私はこの思い出多き金津中学校にて勤務できることに感謝し、教職員と心をつなげて頑張りたいと思います。

高々と 悠々と 共々に

丸岡南中学校長 黒川 光憲



本校は、平成十八年四月、丸岡中学校二校化により新設され、県下初の教科センター方式による中学校として開校しました。校舎自体も教科センター方式に特化し、主体的な学びを促す構造となっております。生徒は、「教科センター方式」と「スクエア制(縦割異学年)」を両輪として学習活動を行い、自由な校風の中で自主・自律の精神を育んでいます。また、地域との連携はもちろんのこと、福井大学教職大学院の拠点校にもなっており、常に新しい知見を取り入れた教育活動を行っています。

このように特色あふれる教育環境の中で、「生徒一人一人が学び舎に誇りを持ち、自信をつけ、そして胸を張って生きていけるよう成長してほしい」と私は願っています。そのためにも、予測不可能な時代であっても自分を見失わないよう自己を確立する必要があると考えています。

今年度からは学習指導要領が新しくなり、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められるようになり、本校の教育資源を有効に生かすことで教育目標の達成と資質・能力の育成に努め、生徒一人一人の自己確立を促していきたいと考えています。現在、学校には、多方面にわたる多様な課題が山積しています。

課題を一つ一つ解決しながら、生徒、教職員、そして地域も笑顔でいられるような素敵な学校をめざして、「チーム南中」を合言葉に教育活動に取り組んでいきます。

子供たちの力を伸ばすために

坂井中学校長 西 健



本校は、坂井平野のほぼ中央に位置し、校舎の三階からは、北には坂井北部丘陵地帯が、南には文殊山や日野山が見えます。学校周辺は、市役所等の公共施設や商業施設とともに、きれいに区画整備された田園地帯です。

本校の生徒の特徴は、素直で礼儀正しい生徒が多いです。相手の目を見て会釈をしての挨拶、雨天でもほとんどの自転車通学生が合羽を着用して通学すること、授業中の意欲的な取り組み等にも感心しています。このような生徒の資質に満足することなく、子供たちの意欲をさらに高め、力を伸ばさなければならぬと痛感しています。

そのために、授業はもちろん生徒会活動行事、部活動等において、生徒に任せる、考えさせる、意見や考えをやりとりする、協働する場面を作る等の工夫を行うよう教職員に話をしていきます。現在、本県は教員の大量定年退職の時期であり、今後、中堅・若手教員の割合が多くなります。ベテラン教員のノウハウを中堅・若



手教員に引き継いだり、教職員が学校運営に参画する場面を作ったりすることが必要です。困っていることを気兼ねなく相談したり協力したりできる、風通しのよい働きやすい職場づくりも進めていきます。

町づくりは人づくり

織田中学校長 川上一規



本校のある織田地区は、丹生郡のほぼ中央に位置し、学校の近くには鎮座千

八百年の歴史を誇る剣神社があります。神仏習合の神社として、また福井県のパワースポットとしても有名です。さらに同神社に毎年奉納される「明神ばやし」や各集落に伝承される「だいにすり太鼓」などの無形文化財があり、地域の方々の文化の継承に力を入れて活動されています。近くを散策してみると、町並みは古く、門前町のなごりが随所に見られる一方で、新しい建築物も作られ、和モダンな風情が感じられます。

本校は、「啓智 成徳 錬磨」の校訓のもと、令和三年度は新入生三六名を迎え、一・二名の全校生徒で七十五年目の春を迎えました。タブレットが導入され、朝の連絡から生徒の机上にタブレットが置かれていた風景にも慣れてきました。また、コロナ禍の間をぬつ

てのマラソン大会では、参加者全員が完走を果たすとともに、友達を一生懸命応援する姿が見られました。学校行事ができることのある力がたさを感じるとともに、子供が躍動する機会を工夫して作り出す大切さも痛感しました。さらに本校では、小学校と連携して、九年間の「ふるさと教育カリキュラム」を作成しています。今年度は子供たちが地域貢献を目標に、地域の方々と「祭り」で共働して、地域の活性化を目指します。

子供たちが学びを実感し、地域の一員として活躍できる学校経営を心がけたいと思います。

「安心」「自信」の

学校づくり

朝日中学校長 渡邊進午



本校は、越前町の西部に位置し、平成二十一年に旧朝日中学校と旧糸生中学校が統合され今年で十三年目を迎えます。現在、全校生徒二九二名で、越前町の中でも生徒数は最も多く、明るく素朴で、校訓「進取精思創造」のもと、生き生きと学校生活を送っています。また、学業のみならず、部活動にも熱心に取り組んでいます。特に、男女ホッケー部は全国でもトップレベルにあり、活躍しています。

本校の校長として赴任した最初の職員会議において「安心」と「自信」というキーワードで学校運営を進めていきたい旨を全教職員へ伝えました。この二つの言葉は、

生徒のためだけでなく、教職員保護者等学校に関わる誰もが幸せになるよう考えたものです。コロナ禍で今年度もまだ様々な活動が中止や延期・変更となっています。そういった先が見通せない中でも「命を守る」「自他を大切にすること」「安心」できる学校、学校の役割が「自律」し、何事にも「チャレンジ」できる「自信」を持てる学校づくりを目指していきたいと考えています。また、全校集会・学校便りなど校長から発信できる場ではいつも二つの言葉を思いながら考えを伝え続けようと思います。

今後、生徒はもちろん学校に関わるすべてに真摯に向き合い、「朝日中学校で学んでよかった、通わせてよかった」と思うような学校づくりを努めていきます。

自分たちが何をやりたいのか

南越中学校長 小林英典



南越中学校は「質実剛健」の校是のもと、「未来を拓く英知と豊かな心を培い、

たくましく生きる生徒の育成」をかしこさ ゆたかさ たくましさ」を教育目標とし、それを実現するために、日々の教育活動に全力で邁進しています。私自身は、本校には三回目の赴任となりますが、学校の伝統は、生徒たちの中にしっかりと受け継がれていると感じています。

さて、最近、気に入っているCMがあります。それは、某ハンバーガーのCMですが、その中で男性

俳優が、次の言葉を語っています。日本の大人たちへ
無数の生き方がある時代
正しい答えなんて一つもない
大事なものは何をやるかより
あなたが何をやりたいのか
さあ、大人を楽しもう

三月下旬、校長室に入ったとき、二十三枚飾られた歴代校長の写真が目飛び込んできました。リーダーシップのある校長先生、ユニークな授業や部活動で実績のある校長先生の写真に毎日囲まれ、重圧に押しつぶされそうになりましたが、このCMの言葉で、生き返った覚えがあります。コロナ禍の終息が見えない中、今後、課題もどんどん出てくるはずですが、そのときには、次の言葉を合い言葉に全教職員で奮闘していきます。

自分たちが何をやりたいのか
(生徒のために)
さあ、学校を楽しもう

絆を深めるために

内浦中学校長 安達克博



本校は、本県最西端に位置し、京都府舞鶴市に隣接しています。

青葉山(若狭富士)山腹に校舎を構え、山海の自然に抱かれた、全校児童生徒三六名(小二四名、中一二名)の小中併設のへき地複式校です。

児童生徒は明るく素直で、落ち着いた学習環境の中で学校生活を送っています。地区との合同体育大会をはじめ、勤労体験学習や地域イベントでは、本校児童生徒と

地域の方が企画・運営を行うなど、保護者や地域と深い絆で結ばれているのが特徴です。

今年度のスクールプランの重点目標を「確かな学力の育成」「豊かな人間性の育成」「たくましい心身の育成」「信頼される学校の創造」としています。その項目の具体的な取組の中に、地域イベントへの参画や保育所との合同活動、学習発表会に地域の方を招待するなど、保護者・地域との連携を盛り込み、いっそう強い絆を結んでいこうと考えています。

また、今年度は読書活動の充実を目指しており、学校での読書活動はもちろん、家庭読書や親子読書の取組を通して、親子の絆を深めてもらおうと考えています。

新型コロナウイルスの影響もあり、教育活動が制限される中ではありますが、少人数の強みを生かして様々な「絆」を深める取組を進めていきたいと考えています。

